

大阪産業創造館の月刊マガジン「Bplatz press」に
「ハタチの会社見学」の見学先のひとつとして取材を受け、
164号に掲載されました！



よそとちゃうことせなあかん!
好奇心で発想力を磨く

昭 和5年、アルミ箔の販売からスタートした木村アルミ箔。「よそとちゃうことせなあかん」という家訓のもと、常に新しいものを取り入れてきた。創業から数年後には単純な裁断加工から吹抜し、金型を使ったアルミ箔製の料理カップを生産するなど。そんなある日、製造現場の職人が前めてしまう。「これは仕事が立ち行かない。そこで、現場のパートさんたちに業務に融入を繋ぐことになりました。パートさんは作業の内容を一番良く知っている。彼女たちと共にすることで、会社自身も成長してきたんです」と木村氏。意識を変える「気づきと職場環境」を与えることで、人はどんどん変化し成長する。その結果は今も受け継がれ、若手に重要な仕事を任せたり、パートから正社員、後輩者へと昇用される例も多い。

平成に入るとフィルム製の料理カップ

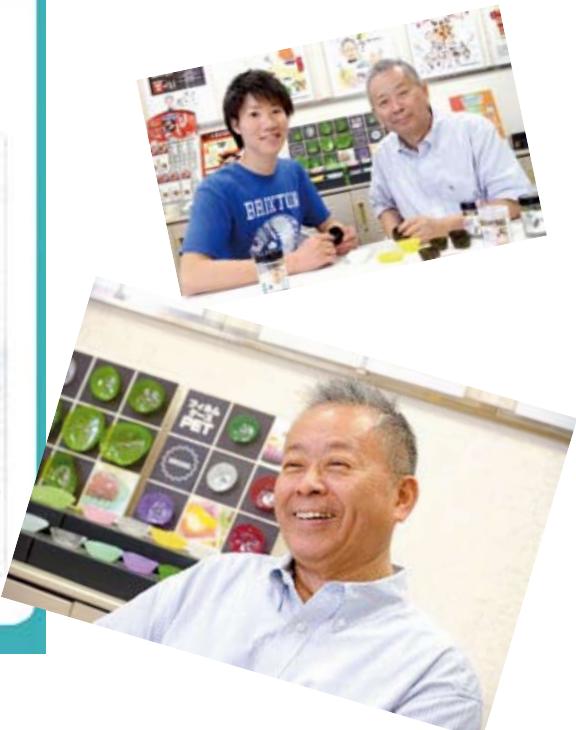
を開発。お弁当などをカラフルに演出する付箋型の面白いカップの誕生だ。この商品のヒットをきっかけに会社の認知度が上がり、より一層、安全で高品質、しっかりとした生産体制が求められるようになった。「それがISO9001・ISO22000の認証取得なんですね。そんな仕組みやルールをつくっても、社員たちがその気にならなければ漫然しない。マニュアルづくりから社員に任せることで、自発的に動く社内の空気が醸成されました」。

現在、コンビニ並用フィルムケースの国内シェアは6割。その後、海苔や昆布でできた「食べられる料理カップ」など、次々と「よそとちゃうこと」を形にしている。「責任は覚えておえんです。また次の手を考えねば。これからも社員たちと共に、新感覚的な「よそとちゃうこと」をやり抜けていきまっせ！」。

木村社長は、第一印象からとても温かい面倒見の方でした。社員を労働力としてみるのではなく、「一人の人間として成長させるための人材教育」と仰っていたことで、女性社員を大切にされていることが印象的でした。興味があることは何でも実践していくという社風の積極的な姿勢が、社員や社内の元気につながり、結果的に組織につながっているんですね。

昭和学院大学
経済学部 2回生
白羽 真さん

ま
取
材
し
ま
し
た



▼WEB限定 ロングインタビュー
<http://bplatz.sansokan.jp/archives/3077>

「よそとちゃうこと」で次の一手 「社員が自分で考える風土」を!